保存資料

婦人関係資料シリーズ
調査資料　No. 36

風紀についての意識

―第二次意識調査結果報告―

労働省婦人少年局

はしがき

婦人少年局では，売春対策の一環として，さきに「風紀に関する意識調査（第一次）」（昭和３６年４月調査）を全国的に実施しましたが，ひきつづき３８年２月～５月，とくに青年男女を対象とした「風紀に関する意識調査（第二次）」を実施しました。ここにその結果をまとめ刊行しますが，この問題を取扱う方々の御参考になれば幸いと存じます。

なお，各大学，各事業所ならびに防衛庁はじめ各自衛隊から多大の御援助，御協力を賜わりましたことを附記し，これらの機関および調査の対象となられた方々に厚くお礼申し上げます。

昭和３９年１月

労働省婦人少年局

目　　次

はしがき
I 調査の概要 ―― 1
1 調査の目的 ―― 1
2 調査事項 ―― 1
3 調査の対象および方法 ―― 1
(1) 調査実施県 ―― 1
(2) 調査実施個所 ―― 1
(3) 調査対象者 ―― 1
(4) 調査の方法 ―― 1
(5) 調査の時期 ―― 1
II 調査対象者の概要 ―― 2
1 年令 ―― 2
2 学歴 ―― 3
3 通勤・通学形態 ―― 4
4 所属 ―― 5
III 調査の結果 ―― 8
1. 風紀に関する基本的態度 ―― 8
(1) 男女交際についての態度 ―― 8
(2) 婚姻外の性関係に対する態度 ―― 17
(3) 性教育の場 ―― 27
(4) 娯楽選択についての傾向 ―― 30
2. 売春問題に対する態度 ―― 37
3. 売春防止法に対する態度 ―― 44
4. 売春問題の将来に対する判断 ―― 48

I. 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、昭和３６年に実施した「風紀についての意識調査」とほぼ同様の内容について、とくに集団生活の中にある青年男女が風紀や売春問題についてどのような考えをもつているかを把握し、今後の施策に資することを目的として行なつた。

2. 調査事項

イ　風紀問題に関する基本的態度
ロ　売春問題に対する態度
ハ　売春防止法に対する態度
ニ　売春問題の将来に対する判断

3. 調査の対象および方法

(1) 調査実施県　１０都道府県
　北海道，宮城，東京，神奈川，愛知，大阪，兵庫，広島，福岡，熊本、

(2) 調査実施個所　２６ヵ所
　青年男女の集団生活の場としての学校（男女共学の大学，女子大学）１０ヵ所，
　事業所（機械器具製造業，繊維工業，金融保険業）１３ヵ所，
　自衛隊（航空，海上，陸上）３ヵ所をとりあげた。

(3) 調査対象者　満２０才以上３０才未満の未婚男女2,３２５人
　ただし実際に回収され集計の対象となつたものは2,１３６人（男1,２２５人，女９１１人）、
　回収率は９２％である。
　なお、対象者は調査実施個所毎に無作為抽出により選定した。

(4) 調査の方法　調査対象者自身の記入による。

(5) 調査の時期　昭和３８年２月（ただし学生については５月）

調査対象集団数および調査対象者数

		調査対象集団数	調査対象者数 計	男	女
合計		26	2136	1225	911
学校	計	10	817	424	393
	男女共学大学	5	548	424	124
	女子大学	5	269	—	269
事業所	計	13	1020	502	518
	機械器具製造業	4	268	268	—
	繊維工業	4	278	—	278
	金融保険業	5	474	234	240
自衛隊	計	3	299	299	—
	航空	1	100	100	—
	海上	1	100	100	—
	陸上	1	99	99	—

Ⅱ 調査対象者の概要

1. 年令

調査対象者の年令別構成をみると、49%は20～21才、25%は22～23才で、両者をあわせると、対象者の74%が20～23才のごく若い層によつて占められている。24～25才は14%、26～27才は8%、28～29才は3%と、年令が高くなるに従い、対象者のなかに占める割合が少なくなつている。男子に比べ女子は、とくに若い層に多く集中しており、女子の89%は20～23才である（男子は63%）。

学生、勤労者、自衛隊員別にみると、学生では20～23才が95%（男93%、女99%）と大多数を占め、24～27才は3%（男5%、女1%）、28～29才は1%（男2%、女0%）にすぎない。勤労者では20～23才が64%（男43%、女82%）と過半数を占め、24～27才は31%（男48%、女15%）、28～29才は5%（男9%、女2%）となつている。自衛隊員では20～23才が52%、24～27才が40%、28～29才が6%となつている。

（第1表参照）

第1表　調査対象者の年令

%

		総数	20～21才	22～23才	24～25才	26～27才	28～29才	不明
総数	計	100.0	48.6	25.3	13.8	7.9	3.4	1.0
	男	100.0	35.3	27.2	19.7	11.8	5.1	0.9
	女	100.0	66.5	22.8	5.8	2.5	1.2	1.2
学生	計	100.0	72.5	22.8	3.1	0.9	0.1	0.6
	男	100.0	58.5	34.0	5.4	1.7	0.2	0.2
	女	100.0	87.8	10.7	0.5	—	—	1.0
勤労者	計	100.0	35.6	27.5	19.2	11.3	5.3	1.1
	男	100.0	20.7	22.7	28.9	18.3	8.6	0.8
	女	100.0	50.3	32.0	9.8	4.4	2.1	1.4
自衛隊員	計	100.0	27.1	25.1	24.4	15.4	6.0	2.0
	男	100.0	27.1	25.1	24.4	15.4	6.0	2.0

2. 学歴

調査対象者の学歴別分布をみると，小学・新中卒が22%（男16%、女29%）、旧中・新高卒30%（男33%、女27%）、短大・大学卒（在学中も含む）47%（男50%、女44%）となつており、男女いずれも短大・大学卒（在学中も含む）が最も多い。しかし、これは大学在学中の学生が多数をしめているためで、勤労者，自衛隊員それぞれについてみればつぎのとおりである。

勤労者は小学・新中卒35%（男17%，女51%）、旧中・新高卒47%（男48%，女47%）短大・大学卒18%（男35%，女1%）となっており，男子では旧中・新高卒が半数近くを占め最も多く，短大・大学卒がとれについでいる。女子では小学・新中卒が過半数を占め，旧中・新高卒をやや上回っている。

自衛隊員は小学・新中卒37%，旧中・新高卒56%，短大・大学卒3%となっており，旧中・新高卒が過半数を占め最も多い。（第2表参照）

第 2 表　　調査対象者の学歴

%

		総　数	小学，新中卒	旧中，新高卒	短大大学卒在学中	不　明
総　数	計	100.0	21.7	30.4	47.3	0.6
	男	100.0	16.1	33.2	49.8	0.9
	女	100.0	29.2	26.8	43.9	0.1
学　生	計	100.0	—	—	100.0	—
	男	100.0	—	—	100.0	—
	女	100.0	—	—	100.0	—
勤労者	計	100.0	34.5	47.3	18.1	0.1
	男	100.0	17.1	47.6	35.3	—
	女	100.0	51.3	47.1	1.4	0.2
自衛隊員	計	100.0	37.1	55.9	3.3	3.7
	男	100.0	37.1	55.9	3.3	3.7

3. 通勤・通学形態

調査対象者の通勤・通学形態についてみると、「親元から」通勤・通学するものが44%（男37%，女53%）、「寄宿舎（寮）」にいるものが39%（男42%，女35%）、「下宿から」15%（男19%，女9%）、「親元以外の親族宅から」2%（男女とも2%）となつており、男子では親元以外のところから通勤・通学するものが多く，女子では親元からの通勤、通学者が多い。

さらに、これを学生、勤労者、自衛隊員別にみると、学生では「親元から」52%（男41%，女63%）、「下宿から」33%（男45%，女21%）、「寄宿舎（寮）」12%（男11%，女13%）となつており、男子は「下宿から」が最も多く、これに「寄宿舎（寮）」「親族宅から」を加えると59%が親元以外からの通学者であるのに対し、女子は「親元から」が63%で親元以外からの通学者をはるかに上回わつている。勤労者では「親元から」49%（男53%，女45%），「下宿から」4%（男7%，女1%），「寄宿舎（寮）」46%（男38%，女52%）で、男子は「親元から」通勤するものが最も多く過半数をしめているのに対し，女子は「寄宿舎（寮）」が過半数で最も多い。なお，女子勤労者の場合「寄宿舎（寮）」がこのように大きな割合を占めているのは，繊維工業に従事するもののほとんどが「寄宿舎（寮）」に起居しているためで、金融保険業の女子は「親元から」通勤するものが大多数である。

自衛隊員では93%が「寄宿舎（寮）」（海上自衛隊員の艦内居住者を含む）にいるもので、「親元から」通勤しているものはごく少ない（0.3%）。（第3表参照）

第 3 表　　調査対象者の通勤・通学形態

%

		総　数	親元から	親元以外の親族宅から	下宿から	寄宿舎(寮)	その他・不明
総　数	計	100.0	43.8	1.8	14.7	39.3	0.4
	男	100.0	36.8	1.6	18.9	42.3	0.4
	女	100.0	53.0	2.1	9.2	35.2	0.5
学　生	計	100.0	51.5	2.7	33.4	12.0	0.4
	男	100.0	40.6	2.8	45.3	11.3	—
	女	100.0	63.4	2.5	20.6	12.7	0.8
勤労者	計	100.0	49.0	1.6	3.6	45.5	0.3
	男	100.0	53.2	1.4	6.8	38.4	0.2
	女	100.0	45.0	1.7	0.6	52.3	0.4
自衛隊員	計	100.0	4.0	0.3	1.7	93.0	1.0
	男	100.0	4.0	0.3	1.7	93.0	1.0

4. 所　　属

なお調査の対象となつた学生、勤労者、自衛隊員それぞれの専攻学部、職種、階級をみると次のとおりである。

まず学生についてその専攻学部をみると、男子は理・工学部が最も多く46%を占め、法・政・商・経済学部（23%）がこれに次ぎ、文学部、医・歯・薬学部、教育学部は少ない。女子は文学部（51%）が最も多く、家政学部（20%）がこれに次ぎ、教育学部、理・工学部、医・歯・薬学部、法・政・商・経済学部は少ない。もつとも女子の場合男女共学の大学と女子大学ではやや異なり、男女共学大学では文学部、理・工学部、教育学部、医・歯・薬学部にそれぞれ20～30%、法・政・商・経済学部に8%であるのに対し、女子大学では文学部（62%）、家政学部（30%）でほとんど占められ、その他の学部を専攻しているものはごく少ない。なお対象女子学生のうち、32%は男女共学大学の、68%は女子大学の学生である。（第4表参照）

第 4 表　　調査対象者（学生）の専攻学部

%

	男	女		
	男女共学大学	計	男女共学大学	女子大学
		(100.0)	(31.6)	(68.4)
総数	100.0	100.0	100.0	100.0
文学	10.4	51.4	28.9	61.7
法・政・商・経済学	22.6	2.8	8.1	0.4
理・工学	46.2	6.9	21.0	0.4
医・歯・薬学	8.5	6.6	20.2	0.4
家政学	—	20.4	—	29.7
教育学	6.4	9.4	21.0	4.1
その他	4.7	2.5	0.8	3.3
不明	1.2	—	—	—

次に、勤労者の職種別構成をみると、第5表のとおり男子では56%が事務職員、28%が生産労働者、13%が技術職員、1%が管理的職員である。

女子は50%が事務職員、49%が生産労働者で、技術職員はごく少なく、管理的職員は全くいない。なお男子の場合、機械器具製造業では生産労働者が、金融保険業では事務職員が多数を占め、女子の場合は繊維工業では生産労働者が、金融保険業では事務職員が大多数を占めている。

また、男女対象者の産業別分布は、男子は機械器具製造業に53%、金融保険業に47%、女子は繊維工業に54%、金融保険業に46%の割合となつている。（第5表参照）

第 5 表　　調査対象者（勤労者）の職種

%

	男			女		
	計	機械器具製造業	金融保険業	計	繊維工業	金融保険業
	(100.0)	(53.4)	(46.6)	(100.0)	(53.7)	(46.3)
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
管理的職員	1.2	1.9	0.4	—	—	—
事務職員	56.4	19.4	98.7	50.2	8.3	99.2
技術職員	13.3	24.3	0.9	0.2	0.4	—
生産労働者	28.3	52.9	—	48.6	90.6	—
その他	0.2	0.4	—	0.8	0.4	0.8
不明	0.6	1.1	—	0.2	0.4	—

注）調査票の職業欄に、部長，課長等と記入したものは「管理的職員」に、事務員、銀行員、会計係等は「事務職員」に、技師、技術員、薬剤士等は「技術職員」に、工員、○○工、労務員、現場事務等は「生産労働者」に、守衛、掃除婦、雑役夫等は「その他」に含めた。

自衛隊員について階級別にみると、士が71%、曹が27%、幹部が2%の割合となつている。なお航空自衛官、海上自衛官、陸上自衛官の三者の割合はほぼ同率である。（第6表参照）

第 6 表　　調査対象者（自衛隊員）の階級

%

	計	航空	陸上	海上
	(100.0)	(33.4)	(33.2)	(33.4)
総数	100.0	100.0	100.0	100.0
幹部	2.3	3.0	—	4.0
曹	27.1	27.0	21.2	33.0
士	70.6	70.0	78.8	63.0

Ⅱ. 調査の結果

以下は調査結果にあらわれた青年男女の考え方をあきらかにし、さらに、昭和36年に実施した「風紀についての意識調査」（以下「前回調査」とよぶ）と同一質問についての比較をこころみたものである。

なお、36年実施の前回調査は、問題地域（歓楽街，温泉観光地，駐留軍基地等）、住宅地域各県それぞれ1ヵ所、計全国92ヵ所に居住する20～59才の男女を無作為抽出し、訪問面接聴取法によつて実施したもので、今回の調査とは、調査地域，母集団，調査方法が異なつているため厳密な比較にはならない。

1. 風紀に関する基本的態度

(1) 男女交際についての態度

イ 男女の交際が自由になつた最近の傾向をどう思うか

最近は一般に男女の交際が相当自由になりその範囲も広まっているようであるが、こうした傾向をどのように考えているかをみると、「好ましい」と答えているものが過半数（男71％，女62％）を占め最も多い。次いで「一概にいえない」というもので男26％，女34％となっている。「困ったものだ」と答えているものは1％（男1.1％，女0.5％）でごく少ない。

なお、前回調査における同年令層の回答では、「好ましい」と答えているものが男66％，女60％，「一概にいえない」というものが男27％，女30％，「困つたものだ」が男1.5％，女0.6％となつており、「好ましい」と考えているものは男女いずれも今回調査の方がやや多い。

以上の考え方を，学生，勤労者，自衛隊員別にみると，「好ましい」と考えているものは、男子では自衛隊員（61％）より勤労者（72％）に，勤労者より学生（77％）に多くなつており、勤労者のなかでは機械器具製造業（71％）より金融保険業（73％）に多い。女子では勤労者（56％）より学生（69％）に多く、勤労者のなかでは繊維工業（47％）より金融保険業（65％）に、学生では女子大生より共学の学生に多くなつている。（第7表―1参照）

第7表―1　男女交際の自由な傾向をどう思うか

％

		総数	好ましい	困つたものだ	一概にいえない	わからない，不明
男	総数	100.0	70.8	1.1	26.0	2.1
	学生（共学大）	100.0	77.2	—	22.4	0.4
	勤労者 計	100.0	71.9	1.2	25.1	1.8
	勤労者 機械器具製造業	100.0	70.9	1.9	25.0	2.2
	勤労者 金融保険業	100.0	72.8	0.8	25.2	1.2
	自衛隊員	100.0	61.0	2.0	32.4	4.6
女	総数	100.0	61.6	0.5	34.0	3.9
	学生 計	100.0	69.1	—	29.3	1.6
	学生 共学大	100.0	73.4	—	25.8	0.8
	学生 女子大	100.0	67.2	—	30.9	1.9
	勤労者 計	100.0	55.8	0.9	37.5	5.8
	勤労者 繊維工業	100.0	47.1	1.8	43.9	7.2
	勤労者 金融保険業	100.0	65.4	—	30.4	4.2

また、学歴別にみると，「好ましい」と答えているものは小学・新中卒で男63％，女47％，旧中・新高卒で男64％，女65％，短大，大学卒（在学中も含む）男79％，女69％となつており，男女いずれも学歴が高くなるに従つて「好ましい」と考えているものが多い。（第7表―2参照）。

第7表―2　男女交際の自由な傾向をどう思うか

％

		総数	好ましい	困つたものだ	一概にいえない	わからない・不明
男	合計	100.0	70.8	1.1	26.0	2.1
	小学・新中卒	100.0	62.8	1.5	28.4	7.1
	旧中・新高卒	100.0	63.5	1.5	33.3	1.7
	短大・大学卒(在学)	100.0	79.0	0.5	20.0	0.5
女	合計	100.0	61.6	0.5	34.0	3.9
	小学・新中卒	100.0	46.5	1.9	42.9	8.7
	旧中・新高卒	100.0	65.1	—	32.0	2.9
	短大・大学卒（在学）	100.0	69.0	—	29.4	1.6

注）　学歴不明のものは除く

年令別には、とくにきわ立つた傾向はみられないが、しいていえば男女いずれも若年層に「好ましい」と考えるものがやや多くなつている（２０～２３才男７２％，女６１％，２８～２９才男71％，女５５％）。（第7表―3参照）

第７表―３　男女交際の自由な傾向をどう思うか

％

		総数	好ましい	困つたものだ	一概にいえない	わからない、不明
男	総数	100.0	70.8	1.1	26.0	2.1
	20～23才	100.0	72.1	0.7	25.1	2.1
	24～27才	100.0	69.6	1.3	27.0	2.1
	28～29才	100.0	71.0	3.2	24.2	1.6
女	総数	100.0	61.6	0.5	34.0	3.9
	20～23才	100.0	61.3	0.4	34.4	3.9
	24～27才	100.0	64.5	2.6	30.3	2.6
	28～29才	100.0	54.5	—	36.4	9.1

一方、実際に、日頃から親しく交際している異性の友人が「ある」と答えているものはほぼ半数（男４６％，女５０％）を占めている。この場合、学生、勤労者、自衛隊員では多少の差がみられる。まず男子では親しい異性の友人が「ある」と答えているのは自衛隊員に最も多く（５０％）、次いで勤労者（４７％）、学生（４３％）の順になつている。勤労者のなかでは、機械器具製造業（４６％）に比べ金融保険業（４８％）に「ある」と答えているものの割合がやや多い。女子についてみると、親しい異性の友人が「ある」と答えているものは学生（５１％）、勤労者（５０％）でほとんど差はみられないが、学生をさらに共学の大学生、女子大の学生に、また勤労者を繊維工業に働く女子と、金融保険業に働く女子とに分けてみるとかなりの差がみられ、共学大では６２％、女子大４５％、繊維工業４８％、金融保険業５２％となつている。（第8表参照）

第８表　親しく交際している異性の友人があるか

％

		総数	ある	ない	不明
男	総数	100.0	46.4	53.1	0.5
	学生	100.0	43.4	55.9	0.7
	勤労者 計	100.0	46.8	52.6	0.6
	勤労者 機器	100.0	45.5	54.1	0.4
	勤労者 金融	100.0	48.3	50.9	0.9
	自衛隊員	100.0	50.2	49.8	—
女	総数	100.0	50.2	48.6	1.2
	学生 計	100.0	50.7	47.8	1.5
	学生 共学大	100.0	62.1	36.3	1.6
	学生 女子大	100.0	45.3	53.2	1.5
	勤労者 計	100.0	49.8	49.2	1.0
	勤労者 繊維	100.0	47.8	50.7	1.4
	勤労者 金融	100.0	52.1	47.5	0.4

異性の友人をもつているものについて、どういう処で知りあつた友達かをみると、「学校の友達」（男３０％、女３８％）が最も多く、次いで「職場の友達」（男２３％、女２１％）となつている。この他「グループの仲間」「家族の知りあい」「近隣の知りあい」「会合での知り合い」などが比較的多くあげられている。

もつとも学生、勤労者、自衛隊員ではかなり違いがみられる。学生では約半数が「学校の友達」（男４９％、女５８％）であり、次いで「グループの仲間」（男２５％、女３０％）、「会合での知りあい」（男１７％、女１８％）となつているが、勤労者では「職場の友達」（男４７％、女３８％）が最も多く、次いで「学校の友達」（男１７％、女２３％）、「グループの仲間」（男１９％、女１４％）となつている。しかし両者ともその所属する集団――学生は学校、勤労者は職場――において知りあつた友人が多いのに対し、自衛隊員の場合は「遊興先での知りあい」（２０％）、「近隣の知りあい」（２０％）、「学校の友達」（１７％）、「職場の友達」（１５％）等、多岐にわたつている。（第9表参照）

第 9 表　　異性の友人はどういう処で知りあつたのか

%

		異性の友人があると答えたもの	学校の友達	職場の友達	グループの仲間	家族の知りあい	近隣の知りあい	会合での知りあい	遊興先での知りあい	旅行先での知りあい	用務先での知りあい	その他不明
男	総数	100.0	29.7	23.2	17.9	12.1	14.2	10.2	12.0	5.4	4.4	8.6
	学生	100.0	48.9	—	25.0	10.3	12.0	17.4	12.0	5.4	3.8	8.2
	勤労者	100.0	23.0	46.8	19.1	14.9	12.8	7.7	6.8	2.1	1.7	8.9
	自衛隊員	100.0	16.7	14.7	7.3	10.0	19.3	5.3	20.0	10.7	9.3	8.6
女	総数	100.0	38.1	21.4	21.2	12.9	7.2	11.6	2.2	3.7	0.9	9.2
	学生	100.0	57.8	—	30.2	15.6	5.5	18.1	1.0	4.0	1.0	5.0
	勤労者	100.0	22.9	38.0	14.3	10.9	8.5	6.6	3.1	3.5	0.8	12.4

他方、異性の友人をもたないものについてその理由をみると「つくる機会がない」（男４５％、女４３％）が最も多く、「社交べただから」（男２２％、女１９％）、「持ちたいと思わない」（男２０％、女２１％）等がこれに次いでいる。この他少数であるが「周囲の眼がうるさい」「両親がうるさい」「勉強が忙しく暇がない」「まだ若過ぎるのでもう２～３年してから」等がみられる。（第１０表参照）

第 1 0 表　　異性の友人をもたないのはなぜか

%

		異性の友人がないと答えたもの	つくる機会がない	社交べただから	持ちたいと思わない	周囲の眼がうるさい	両親がうるさい	その他不明
男	総数	100.0	44.8	21.7	19.5	2.8	0.8	16.3
	学生	100.0	55.3	21.9	14.3	1.7	0.8	16.0
	勤労者	100.0	34.1	21.6	23.5	4.9	1.1	18.6
	自衛隊員	100.0	47.0	21.5	20.8	0.7	—	12.7
女	総数	100.0	43.1	19.2	21.2	4.5	4.5	17.1
	学生	100.0	42.6	14.4	29.8	0.5	3.2	18.6
	勤労者	100.0	43.5	22.7	14.9	7.5	5.5	16.1

ロ　男女交際に対して家庭の理解度はどうか

家庭において男女交際や恋愛について自由に話しあえるふんいきが「ある」と答えているものが８割弱（男７４％、女７７％）で大多数を占めており、一般に男女交際に対する家庭の理解度は高い。（第１１表—１参照）

また前項の異性の友達が「ある」と答えたものの方が、「ない」と答えたものより、家庭において男女交際について自由に話しあえるふんいきが「ある」と答えているものの割合が高い（前者男７８％，女８１％，後者男６９％，女７４％）。（第１１表—２参照）

第 1 1 表— 1　　男女交際について家庭で自由に話しあえるふんいきがあるか

%

		総数	ある	ない	不明
男	総数	100.0	73.5	25.7	0.8
	学生	100.0	64.4	34.7	0.9
	勤労者	100.0	78.7	20.5	0.8
	自衛隊員	100.0	77.6	21.7	0.7
女	総数	100.0	77.1	21.0	1.9
	学生	100.0	76.0	23.2	0.8
	勤労者	100.0	78.0	19.3	2.7

第１１表―２　男女交際について家庭で自由に話しあえるふんいきがあるか

%

		総数	ある	ない	不明
男	総数	100.0	73.5	25.7	0.8
	異性の友達がある	100.0	78.2	21.1	0.7
	異性の友達がない	100.0	69.4	29.8	0.8
女	総数	100.0	77.1	21.0	1.9
	異性の友達がある	100.0	81.0	17.7	1.3
	異性の友達がない	100.0	73.5	24.2	2.3

ハ　ゆきずりの異性に誘いかけられた場合どうするか

男女交際の態度について、さらに街頭などで見ずしらずの異性に誘いかけられた場合（商売としての勧誘を除く）どうするかと質問したところ、男子と女子ではその回答がかなり異なつている。男子では「相手、ふんいき次第では同行する」が４７％で最も多く、「拒否する」「無視する」の両者をあわせたものが４５％でこれにつぎ、「相手、ふんいきを問わず同行する」と答えたものはごくわずかである（1.3％）。女子では、「拒否する」「無視する」と答えたものが８９％で大多数を占め、「相手、ふんいき次第では同行する」と答えたものは７％にすぎない。また、「相手、ふんいきを問わず同行する」というものは皆無である。（第１２表―１参照）

なお、男女交際が自由になつた傾向に対する考えかた別にみると、第１２表―２にみるとおり男女いずれも「拒否する」「無視する」と答えているものは男女交際が自由になつて「困つたものだ」と考えているものに、「相手、ふんいき次第では同行する」と答えているものは男女交際が自由になつて「好ましい」と考えているものにそれぞれ多くなつている。また、「相手、ふんいきを問わず同行する」と答えた男子は男女交際が自由になつて「困つたものだ」と考えているものに多い。（第１２表―２参照）

第１２表―１　街頭で異性に誘いかけられた場合どうするか

%

		総数	拒否する	無視する	相手，ふんいき次第では同行する	相手，ふんいきを問わず同行する	その他・不明
男	総数	100.0	25.1	20.2	47.1	1.3	6.3
	学生	100.0	27.8	19.3	44.9	0.9	7.1
	勤労者	100.0	25.7	23.9	41.2	1.2	7.0
	自衛隊員	100.0	18.6	15.1	60.3	2.0	4.0
女	総数	100.0	52.4	37.0	7.2	—	3.4
	学生	100.0	56.2	36.9	3.3	—	3.6
	勤労者	100.0	49.4	37.1	10.2	—	3.3

第１２表―２　街頭で異性に誘いかけられた場合どうするか

%

		総数	拒否する	無視する	相手，ふんいき次第では同行する	相手，ふんいきを問わず同行する	その他，不明
男	総数	100.0	25.1	20.2	47.1	1.3	6.3
	男女交際が自由になって好ましい	100.0	25.6	18.2	49.0	1.4	5.8
	〃困ったものだ	100.0	15.4	38.4	23.1	7.7	15.4
	〃一概にいえない	100.0	23.9	24.8	43.1	0.3	7.9
女	総数	100.0	52.4	37.0	7.2	—	3.4
	男女交際が自由になって好ましい	100.0	55.0	33.2	8.2	—	3.6
	〃困ったものだ	100.0	80.0	20.0	—	—	—
	〃一概にいえない	100.0	47.8	43.9	6.1	—	2.2

ニ　どんな結婚のしかたがのぞましいと思うか

調査対象者自身どういう結婚をのぞむかという問に対しては、「恋愛結婚」をのぞむものが男女とも最も多く（男４１％、女４４％）、次いで男子は「どちらでもよい」（２９％）、「交際結婚」（２２％）、「見合結婚」（６％）、女子は「交際結婚」（３０％）、「どちらでもよい」（１８％）、「見合結婚」（７％）の順となつている。

この傾向は年令により多少の差がみられる。すなわち第１３表に示すとおり、男女いずれも２０～２７才では「恋愛結婚」をのぞむものが最も多いが、２８～２９才では「どちらでもよい」と答えているものが最も多くなつており、年令が低いものほど「恋愛結婚」をのぞむものが多く、年令が高くなるに従い「どちらでもよい」というものが多くなつている。

（第１３表参照）

第１３表　　どんな結婚がのぞましいか

％

		総数	恋愛結婚	交際結婚	見合結婚	どちらでもよい	不明
男	総数	100.0	40.9	21.8	6.3	29.4	1.6
	20～23才	100.0	46.5	17.9	5.0	29.4	1.2
	24～27才	100.0	32.4	29.8	8.0	27.7	2.1
	28～29才	100.0	25.8	21.0	11.3	41.9	—
女	総数	100.0	43.7	29.5	6.6	17.5	2.7
	20～23才	100.0	44.4	29.5	6.2	17.2	2.7
	24～27才	100.0	36.9	31.6	10.5	18.4	2.6
	28～29才	100.0	27.3	27.3	—	45.4	—

注）年令不明を除く

なお、前回調査における同年令層の回答では、「恋愛結婚」男４２％、女３１％、「交際結婚」男２８％、女３９％、「見合結婚」男７％、女８％、「どちらでもよい」男２１％、女２０％で、男子は「恋愛結婚」女子は「交際結婚」が最も多数を占めていたが、今回調査では男女とも「恋愛結婚」が最も多く、ことに女子の場合、その占める割合はかなり多い。なお、「交際結婚」「見合結婚」と答えているものは男女いずれも前回調査より減少している。

(2)　婚姻外の性関係に対する態度

イ　結婚前の純潔をどう考えているか

結婚前には男も女も純潔を守るべきかの質問に対する解答をみると、「男も女も守るべきだ」と答えているのは男３６％、女７０％、「守れたら守つた方がよい」と答えているのは男３９％、女１６％で、大多数のものが純潔を守つた方がよいと考えている。とくに男子に比べ女子はその割合が高く（男７６％，女８６％）、なかでも「男も女も守るべきだ」と考えているものの割合が高い。なお、「場合による」（男１２％，女６％）、「女は守るべきだが男は守らなくてもよい」（男６％，女３％）、「男も女も守らなくてもよい」（男３％，女１％）と考えているものも２割前後みられた。（第１４表—１参照）

学生、勤労者、自衛隊員別にみると、男子では自衛隊員より勤労者、勤労者より学生の方が純潔を守つた方がよいと考えているものの割合が高い。（自衛隊員７０％，勤労者７６％，学生７９％）。女子の場合は学生と勤労者の間にほとんど差はみられず、純潔を守つた方がよいと考えているものはいずれも８６％を占めている。（第１４表—１参照）

年令別にみると、「男も女も守るべきだ」「守れたら守つた方がよい」と考えているものは２０～２３才で男７６％、女８５％、２４～２７才で男７４％、女９１％、２８～２９才では男８６％、女１００％となつており、年令の低いものより高いものの方が概して、純潔を守つた方がよいと考えているものが多い。（第１４表—２参照）

第14表－1　結婚前の純潔は守るべきか

%

		総数	男も女も守るべきだ	守れたら守った方がよい	場合による	守らなくてよい	女は守るべきだが男は守らなくてよい	わからない 不明
男	総数	100.0	36.2	39.4	11.7	3.4	5.6	3.7
	学生	100.0	41.7	36.8	10.6	5.0	3.3	2.6
	勤労者	100.0	39.5	36.7	11.0	2.6	5.6	4.6
	自衛隊員	100.0	22.7	47.5	14.4	2.7	9.0	3.7
女	総数	100.0	69.8	16.1	6.1	0.9	2.7	4.4
	学生	100.0	70.2	15.3	7.6	1.3	0.5	5.1
	勤労者	100.0	69.3	16.8	5.0	0.6	4.4	3.8

第14表－2　結婚前の純潔は守るべきか

%

		総数	男も女も守るべきだ	守れたら守った方がよい	場合による	守らなくてよい	女は守るべきだが，男は守らなくてよい	わからない 不明
男	総数	100.0	36.2	39.4	11.7	3.4	5.6	3.7
	20～23才	100.0	39.5	36.7	12.3	3.9	4.0	3.6
	24～27才	100.0	30.1	43.4	11.7	2.8	8.8	3.4
	28～29才	100.0	35.5	50.1	4.8	—	4.8	4.8
女	総数	100.0	69.8	16.1	6.1	0.9	2.7	4.4
	20～23才	100.0	69.6	15.7	6.4	0.9	2.7	4.7
	24～27才	100.0	68.5	22.4	3.9	1.3	2.6	1.3
	28～29才	100.0	81.8	18.2	—	—	—	—

第14表－3　結婚前の純潔は守るべきか

		総数	男も女も守るべきだ	守れたら守った方がよい	場合による	守らなくてよい	女は守るべきだが男は守らなくてよい	わからない 不明
男	総数	100.0	36.2	39.4	11.7	3.4	5.6	3.7
	男女交際が自由になつて好ましい	100.0	35.6	39.4	11.5	3.9	6.1	3.5
	〃 困つたものだ	100.0	46.1	7.7	7.7	15.4	7.7	15.4
	〃一概にいえない	100.0	38.3	40.1	11.9	1.9	4.7	3.1
女	総数	100.0	69.8	16.1	6.1	0.9	2.7	4.4
	男女交際が自由になつて好ましい	100.0	68.8	17.9	5.9	1.3	1.8	4.3
	〃 困つたものだ	100.0	100.0	—	—	—	—	—
	〃一概にいえない	100.0	71.9	13.9	6.5	0.3	4.5	2.9

さらに、男女の交際が自由になつた最近の傾向に対する考え方と対照させてみると、男子では、男女交際が自由になつて「好ましい」と答えているものの方が、「困つたものだ」と答えているものより、純潔を守つた方がよい（「男も女も守るべきだ」「守れたら守つた方がよい」）と考えているものが多く、女子では男子とは逆に「好ましい」と答えているものより、「困つたものだ」と答えているものの方が、純潔を守るべきだという考えが強い。なお、男女交際が自由になつた傾向に対して「一概にいえない」と答えているものの考え方は、自由になつた傾向を「好ましい」というものと殆んど同じである。（第14表—3参照）

なお、前回調査における同年令層と比較すると、前回では「男も女も守るべきだ」が男4.7%、女75%、「守れたら守つた方がよい」男38%、女21%、「守らなくてよい」男4%、女0%、「女は守るべきだが男は守らなくてよい」男5%、女2%となつており、男女いずれも今回調査の方が前回より純潔を守つた方がよいと考えているものは1割前後少ない。一方、「守らなくてよい」と考えているものはほとんど同率であるが、今回は、このほかにあらたに加えた「場合による」という回答が男12%、女6%あつた。

ロ　夫の女性関係をどう思うか

夫が妻以外の女性と関係をもつことについて「絶対にいけない」と答えているものは男55%、女78%、「場合による」は男29%、女12%、「別にかまわない」は男5%、女1%となつていて、夫の女性関係を否定するものが過半数を占めている。とくに女子の場合大多数のものがこれを否定している。（第15表—1参照）

第15表—1　　夫の女性関係をどう思うか

%

		総数	絶対にいけない	場合による	別にかまわない	わからない、不明
男	総数	100.0	54.6	28.8	5.0	11.6
	学生	100.0	55.2	28.5	4.5	11.8
	勤労者	100.0	55.5	27.5	5.2	11.8
	自衛隊員	100.0	52.5	31.4	5.4	10.7
女	総数	100.0	78.4	12.2	0.8	8.6
	学生	100.0	75.6	12.5	1.0	9.4
	勤労者	100.0	80.5	12.0	0.6	6.9

学生・勤労者・自衛隊員別では、ほとんど差はみられないが、しいていえば、「絶対にいけない」と考えているものが自衛隊員（男53%）より学生に（男55%、女76%）学生より勤労者（男56%、女81%）にやや多くなつている。（第15表—1参照）

年令別にみると「絶対にいけない」と考えるものは　20～23才では男53%、女63%　28～29才では男63%、女82%　と年令の低い層よりも高い層に多く、逆に「場合による」「別にかまわない」と考えているものは、20～23才では男34%、女13%、28～29才では男27%、女9%　で、年令の低い層にやや多くなつている。（第15表—2参照）

第15表—2　　夫の女性関係をどう思うか

%

		総数	絶対にいけない	場合による	別にかまわない	わからない、不明
男	総数	100.0	54.6	28.8	5.0	11.6
	20～23才	100.0	52.8	28.3	5.5	13.4
	24～27才	100.0	57.7	29.5	4.7	8.1
	28～29才	100.0	62.9	27.4	—	9.7
女	総数	100.0	78.4	12.2	0.8	8.6
	20～23才	100.0	77.8	12.8	0.7	8.7
	24～27才	100.0	82.9	7.9	—	9.2
	28～29才	100.0	81.8	9.1	—	9.1

注）　年令不明を除く

また、男女の交際が自由になつた最近の傾向に対する考え方と対照させてみると、夫の女性関係を「絶対にいけない」と否定するものは、男女いずれも、男女交際の自由な傾向を「一概にいえない」（男54%、女78%）とみているものより「好ましい」（男55%、女79%）とみているものに、「好ましい」とみているものより「困つたものだ」（男62%、女80%）とみているものに多い。しかし、男子の場合、夫の女性関係を「別にかまわない」と答えたものも、男女交際の自由な傾向を「困つたものだ」とみているものにやや多いのが注目される。（第15表—3参照）

第１５表－３　　夫の女性関係をどう思うか

%

		総数	絶対にいけない	場合による	別にかまわない	わからない、不明
男	総数	100.0	54.6	28.8	5.0	11.6
	男女の交際が自由になつて好ましい	100.0	54.8	28.9	5.2	11.1
	〃 困つたものだ	100.0	61.5	23.1	7.7	7.7
	〃 一概にいえない	100.0	54.1	29.6	4.1	12.2
女	総数	100.0	78.4	12.2	0.8	8.6
	男女の交際が自由になつて好ましい	100.0	78.6	12.0	0.7	8.7
	〃 困つたものだ	100.0	80.0	20.0	—	—
	〃 一概にいえない	100.0	78.3	12.9	0.6	8.2

さらに、結婚前の純潔に対する考え方と、夫の女性関係に対する考え方とを対照させてみると、まず、結婚前の純潔は「男女とも守るべきだ」と考えているものでは、大多数（男７８％，女８６％）が結婚後も夫の女性関係を「絶対にいけない」と否定しており、「守れたら守つた方がよい」では、夫の女性関係を「絶対にいけない」と答えているものが男４７％、女３１％、で前者より後者の方が夫の女性関係に対する否定度は低い。また、「場合により純潔は守らなくてもよい」と考えるものでは、夫の女性関係を「絶対にいけない」というものが男３５％，女５５％でさらに否定度が低くなつている。なお、婚前の純潔を「守らなくてよい」「女は守るべきだが男は守らなくてよい」と考えるものは、女子では、ほとんどが「絶対にいけない」といつているが、男子では夫の女性関係を「場合による」と考えているものが半数前後（前者４３％、後者５２％）、「絶対にいけない」「別にかまわない」がそれぞれ２割強みられた。（第１５表－４参照）

前回調査における同年令層と比較すると、前回では「絶対にいけない」と答えていたものが男７０％、女８１％、「別にわるいことではない」が男１６％、女８％で、男女いずれも今回調査の方が「絶対にいけない」と否定するものが少なくなつている（ことに男子は２割近く少ない）。一方、「別にかまわない」と容認するものも今回の方が男女とも１割前後少なくなつているが、今回は、このほかにあらたに加えた「場合による」という回答が男２９％女１２％あつた。

第１５表－４　　夫の女性関係をどう思うか

%

		総数	絶対にいけない	場合による	別にかまわない	わからない、不明
男	総数	100.0	54.6	28.8	5.0	11.6
	結婚前の純潔は男女とも守るべきだ	100.0	78.4	11.5	1.8	8.3
	〃 守れたら守つた方がよい	100.0	46.8	35.1	4.8	13.3
	〃 場合による	100.0	35.0	51.7	4.2	9.1
	〃 守らなくてよい	100.0	23.8	42.9	21.4	11.9
	〃 女は守るべきだが男は守らなくてよい	100.0	21.7	52.2	20.3	5.8
女	総数	100.0	78.4	12.2	0.8	8.6
	結婚前の純潔は男女とも守るべきだ	100.0	85.8	7.4	0.3	6.5
	〃 守れたら守つた方がよい	100.0	60.5	27.2	1.4	10.9
	〃 場合による	100.0	55.3	30.4	5.4	8.9
	〃 守らなくてよい	100.0	100.0	—	—	—
	〃 女は守るべきだが男は守らなくてよい	100.0	80.0	12.0	—	8.0

なお夫が妻以外の女性と関係をもつことについて「別にかまわない」「場合による」と答えたものについて、夫の女性関係の相手方についてどのような相手ならよいかを問うと「素人でも水商売の人でもよい」と答えたものは男５６％、女３７％、で最も多いが、なかには「水商売の人ならよい」と答えているものも男１４％，女２０％みられた。この他「わからない」と答えているものもとくに女子に多くみられる（男１９％，女３１％）。（第１６表参照）

第１６表　　夫の女性関係の相手について

%

	合　計	素人でも水商売の人でもよい	水商売の人ならよい	わからない	その他 不　明
男	100.0	55.8	14.3	19.3	10.6
女	100.0	37.3	20.3	31.4	11.0

注）第１５表にて、夫が女性関係をもつことを「別にかまわない」「場合による」と答えたもののみ

ハ　妻の男性関係をどう思うか

妻が夫以外の男性と関係をもつことについてどう思うかの問に対し、男子は７３％、女子は８２％が「絶対にいけない」と答えている。「場合による」（男１７％，女９％）「別にかまわない」（男２％，女１％）と答えているものは少い。（第１７表―１参照）

なお「絶対にいけない」と答えたものの割合は、前項で質問した夫が妻以外の女性と関係をもつことについて「絶対にいけない」と答えたものの割合（男５５％，女７８％）をかなり上回わつている。

学生・勤労者・自衛隊員別にみると、それほど大きな差はみられないが、「絶対にいけない」と考えているものは学生（男６８％，女７９％）より勤労者（男７６％，女８４％）に、勤労者より自衛隊員（男７７％）に多い。（第１７表―１参照）

第１７表―１　　妻の男性関係をどう思うか

%

		総　数	絶対にいけない	場合による	別にかまわない	わからない、不明
男	総　数	100.0	73.4	16.5	2.2	7.9
	学　生	100.0	68.2	19.8	1.9	10.1
	勤労者	100.0	75.9	14.7	2.0	7.4
	自衛隊員	100.0	76.9	14.7	2.7	5.7
女	総　数	100.0	81.5	8.5	0.9	9.1
	学　生	100.0	78.9	9.9	1.5	9.7
	勤労者	100.0	83.6	7.3	0.4	8.7

年令別には「絶対にいけない」と考えるものはどちらかといえば年令の高い層にやや多くなつている。（第１７表―２参照）

第１７表―２　　妻の男性関係をどう思うか

%

		総　数	絶対にいけない	場合による	別にかまわない	わからない、不明
男	総　数	100.0	73.4	16.5	2.2	7.9
	20～23才	100.0	70.9	18.1	2.0	9.0
	24～27才	100.0	77.5	14.2	2.6	5.7
	28～29才	100.0	79.1	11.3	1.6	8.0
女	総　数	100.0	81.5	8.5	0.9	9.1
	20～23才	100.0	81.2	9.0	0.9	8.9
	24～27才	100.0	84.2	3.9	1.3	10.6
	28～29才	100.0	81.8	9.1	—	9.1

注）年令不明を除く

男女の交際が自由になつた最近の傾向に対する考え方と対照させてみると、妻の男性関係を「絶対にいけない」と否定するものは、男女いずれも男女交際の自由な傾向を「困つたものだ」（男６９％，女８０％）とみているものより「好ましい」(男７３％，女８１％）とみているものに、「好ましい」とみているものより「一概にいえない」（男７５％，女８４％）とみているものに多い。（第１７表―３参照）

この傾向は前掲の夫の女性関係に対する考え方と全く逆であり注目される。

第１７表―３　妻の男性関係をどう思うか

％

		総数	絶対にいけない	場合による	別にかまわない	わからない、不明
男	総数	100.0	73.5	16.5	2.1	7.9
	男女交際が自由になつて好ましい	100.0	73.2	16.3	2.3	8.2
	〃 困つたものだ	100.0	69.2	15.4	7.7	7.7
	〃 一概にいえない	100.0	74.5	17.0	1.3	7.2
女	総数	100.0	81.5	8.5	0.9	9.1
	男女交際が自由になつて好ましい	100.0	80.9	9.1	1.1	8.9
	〃 困つたものだ	100.0	80.0	—	—	20.0
	〃 一概にいえない	100.0	84.2	7.7	0.6	7.5

さらに結婚前の純潔に対する考え方と、妻の男性関係に対する考え方を対照させてみると、結婚前の純潔を守るべきだと考えているものは妻の男性関係を「絶対にいけない」と否定するものが大多数（男８９％，女８８％）を占めている。純潔を「守れたら守つた方がよい」と考えるものも妻の男性関係を「絶対にいけない」（男６９％，女８８％）と考えるものが多いが、「場合による」と考えるものは妻の男性関係について「絶対にいけない」（男５４％，女５５％）に次いで「場合による」（男３６％，女２３％）と考えているものも少なくない。純潔を「守らなくてよい」と考えるものはとくに男子の場合「場合による」「別にかまわない」と考えるものの多いのが目立つている。以上は夫の女性関係に対する考え方にみられる傾向とほぼ同じであるが、結婚前の純潔は「女は守るべきだが男は守らなくてよい」と考えるものについては、とくに男子の場合夫の女性関係は「場合による」（５２％）と考えるものが多かつたのに対し、妻の男性関係は「絶対にいけない」（８４％）と考えるものが多数を占めているのが

特徴的である。（第１７表―４参照）

なお、妻の男性関係を「絶対にいけない」と答えたものの割合は、男女、各集団、各々の考え方を通じて、いずれも夫の女性関係を「絶対にいけない」と答えたものの割合よりも高くなつている。

第１７表―４　妻の男性関係をどう思うか

％

		総数	絶対にいけない	場合による	別にかまわない	わからない、不明
男	総数	100.0	73.5	16.5	2.1	7.9
	結婚前の純潔は男も女も守るべきだ	100.0	88.5	6.1	0.7	4.7
	〃 守れたら守つた方がよい	100.0	69.3	20.1	2.1	8.5
	〃 場合による	100.0	53.9	36.3	2.1	7.7
	〃 守らなくてよい	100.0	33.3	35.7	16.7	14.3
	〃 女は守るべきだが男は守らなくてよい	100.0	84.1	10.1	2.9	2.9
女		100.0	81.5	8.5	0.9	2.4
	結婚前の純潔は男も女も守るべきだ	100.0	87.8	5.2	0.3	2.0
	守れたら守つた方がよい	100.0	71.5	16.3	2.7	0.7
	場合による	100.0	55.4	23.2	3.6	8.9
	守らなくてよい	100.0	100.0	—	—	—
	女は守るべきだが男は守らなくてよい	100.0	88.0	8.0	—	—

前回調査における同年令層と比較すると、前回では「絶対にいけない」と答えていたものが男８３％，女８９％、「別にわるいことではない」が男６％、女３％で、男女いずれも今回調査の方が「絶対にいけない」と否定するものが１割前後少なくなつている。一方、「別にわるいことではない」と容認するものも今回の方が男女ともやや少なくなつているが、今回は、この様かにあらたに加えた「場合による」という回答が男１７％、女９％あつた。

(3)　性教育の場

イ　性についての知識をどこから得たか

調査対象者の７割（男７２％，女７１％）は性についての知識を「雑誌や本で知つた」と答

えている。次いで男子は「先輩や友達からきいた」（47%）、「学校で習つた」（19%）「映画で知つた」（12%）。女子は「学校でならつた」（37%）、「先輩や友達からきいた」（22%）、「親から話された」（11%）の順となつている。このほか「新聞で読んだ」「テレビ、ラジオできいた」「講演できいた」等の声がわずかであるがみられる。

学歴別にみると、第18表にみるとおり、小学・新制中学卒では過半数が「雑誌や本で知つた」「先輩や友達からきいた」知識であるのに対し、旧制中学・新制高校一卒以上になると性知識を得た方法が多岐にわたつている。なかでも「学校でならつた」と答えているものの割合は小学・新中卒では少なく、学歴が高くなるに従つて多くなつている。（第18表参照）

第18表　性知識をどこから得たか　（MA）

%

		総数	雑誌や本で知つた	先輩や友達からきいた	学校でならつた	映画で知つた	親から話された	新聞で読んだ	テレビできいた	講演できいた	その他 不明
男	総数	100.0	72.4	46.8	19.4	12.2	3.6	5.6	3.4	2.4	6.5
	小学・新中卒	100.0	57.9	51.8	8.6	9.1	2.0	3.0	1.0	2.5	5.0
	旧中・新高卒	100.0	66.5	43.1	20.4	11.3	1.7	2.7	1.5	1.2	5.9
	短大・大学卒	100.0	81.1	48.0	22.3	13.6	5.4	8.5	5.4	3.1	7.4
女	総数	100.0	71.2	22.4	37.1	7.6	11.1	4.1	4.2	4.1	5.6
	小学・新中卒	100.0	75.9	45.5	19.5	7.5	2.3	1.5	1.5	5.3	3.4
	旧中・新高卒	100.0	69.3	13.1	40.6	4.1	8.2	3.3	2.9	4.5	7.0
	短大・大学卒	100.0	69.1	12.6	46.7	9.5	18.6	6.3	6.8	3.0	6.3

注）1人で該当する項目すべてについて回答しているので各項目の合計は総数と一致しない。

□ 性教育はどこでしたらよいと思うか

それでは性教育はどこでするのが最もよいと思うかの問に対し男子のうち49%、女子のうち38%が「学校」と答えている。次いで「家庭」（男23%，女27%）、「社会」（男12%，女11%）となつているが学歴の高いものは「学校」に次いで「家庭」を、学歴の低いものは「学校」に次いで「社会」をあげたものが多くなつている。（第19表参照）

第19表　　性教育はどこでしたら最もよいか

%

		総数	学校	家庭	社会	その他	わからない、不明
男	総数	100.0	48.9	22.7	12.2	5.6	10.6
	小学、新中卒	100.0	49.3	14.2	21.3	2.0	13.2
	旧中、新高卒	100.0	53.6	19.5	13.8	3.5	9.6
	短大、大学卒、在学	100.0	45.0	28.0	8.5	8.4	10.1
女	総数	100.0	37.9	26.5	11.2	8.2	16.2
	小学、新中卒	100.0	29.3	18.8	25.6	4.9	21.4
	旧中、新高卒	100.0	44.8	20.9	7.8	8.6	17.9
	短大、大学卒、在学	100.0	39.7	34.9	3.8	10.0	11.6

注）学歴不明を除く

(4) 娯楽選択についての傾向

イ 接客業に従事する女性は今後ふえると思うか、へると思うか

芸妓あるいはカフエー、キヤバレー等の社交係との遊びを求める男性は今後ふえると思うかの質問に対し、芸妓については「かわりない」（男30%，女22%）、社交係については「ふえる」（男49%，女34%）と考えているものが多い。

芸妓、社交係とも学生より勤労者、勤労者より自衛隊員に「ふえる」と考えるものが多くみられる。また年令の高いものより低いものの方に「ふえる」と考えるものが多くなつている。しかし男女とも「わからない」と答えているものがかなり多く、芸妓、社交係等に対する関心の低いことがうかがわれる。（第20表—1，2、第21表—1，2参照）

第20表—1　　芸妓との遊びを求める人はふえるか

%

		総数	ふえる	かわりない	へる	わからない、不明
男	総数	100.0	25.4	30.3	23.3	21.0
	学生	100.0	19.6	32.2	24.1	24.1
	勤労者	100.0	20.9	32.9	27.1	19.1
	自衛隊員	100.0	41.1	23.4	15.7	19.8
女	総数	100.0	17.0	22.0	23.4	37.6
	学生	100.0	11.2	23.2	28.0	37.6
	勤労者	100.0	21.4	21.0	19.9	37.7

第20表—2　　芸妓との遊びを求める人はふえるか

%

		総数	ふえる	かわりない	へる	わからない、不明
男	総数	100.0	25.4	30.3	23.3	21.0
	20～23才	100.0	25.0	29.4	22.5	23.1
	24～27才	100.0	26.7	30.8	24.4	18.1
	28～29才	100.0	17.7	40.4	27.4	14.5
女	総数	100.0	17.0	22.0	23.4	37.6
	20～23才	100.0	17.5	21.3	23.4	37.8
	24～27才	100.0	10.5	29.0	25.0	35.5
	28～29才	100.0	9.1	27.3	18.2	45.4

注）年令不明を除く

第２１表－１　カフエー，キヤバレーなどの社交係との遊びを求める人はふえるか

%

		総数	ふえる	かわりない	へる	わからない，不明
男	総数	100.0	49.3	26.2	7.3	17.2
	学生	100.0	48.1	26.9	5.9	19.1
	勤労者	100.0	44.0	30.5	9.4	16.1
	自衛隊員	100.0	60.2	18.1	5.7	16.0
女	総数	100.0	33.7	20.0	9.6	36.7
	学生	100.0	32.5	22.4	10.2	34.9
	勤労者	100.0	34.6	18.3	9.1	38.0

第２１表－２　カフエー，キヤバレーなどの社交係との遊びを求める人はふえるか

%

		総数	ふえる	かわりない	へる	わからない，不明
男	総数	100.0	49.3	26.2	7.3	17.2
	20～23才	100.0	51.0	24.9	6.0	18.1
	24～27才	100.0	47.6	27.2	9.1	6.1
	28～29才	100.0	40.3	35.5	9.7	14.5
女	総数	100.0	33.7	20.0	9.6	36.7
	20～23才	100.0	34.2	19.3	10.1	36.4
	24～27才	100.0	27.6	26.3	6.6	39.5
	28～29才	100.0	9.1	36.4	—	54.5

芸妓あるいは社交係との遊びを求める人は「ふえる」と答えたもののうち、約半数（男４３%，女５４%）は家庭娯楽やスポーツが盛んになることによつて、これらの遊びを求める人は「へる」「なくなる」と考えている。この場合、自衛隊員より学生に、学生より勤労者に「へる」と考えているものの割合が多い。（第２２表参照）

第２２表　家庭娯楽やスポーツが盛んになることによつて、芸妓・社交係との遊びを求める人はへるか

%

		合計	ふえる	かわりない	へる	なくなる	わからない，不明
男	総数	100.0	3.0	47.1	42.2	0.3	7.4
	学生	100.0	1.9	47.2	46.6	—	4.3
	勤労者	100.0	3.1	48.0	41.0	0.4	7.5
	自衛隊員	100.0	4.1	45.9	38.8	0.5	10.7
女	総数	100.0	1.5	32.4	54.0	—	12.1
	学生	100.0	—	40.6	48.7	—	10.7
	勤労者	100.0	2.5	27.1	57.4	—	13.0

注）第20表あるいは第21表で、「芸妓または社交係との遊びを求める人はふえる」と答えたもののみ

ロ　性問題を露骨に扱つた週刊誌，映画はどういう人に多くみられていると思うか

性問題を露骨に取扱つた週刊誌や映画に興味をもつのは若い人（２０～３０才）に多いと思うか、あるいは年配の人に多いと思うかの問に対し、男女とも「どちらともいえない」と答えているものが最も多い（男４７%，女３８%）。次いで多いのは「若い人に多い」と答えているもので男女いずれも３１%を占めている。「年配者に多い」と答えているものは男１４%，女１２%で比較的少ない。このほか「わからない」と答えているものが女子の場合とくに多く（２０%）、男子に比べこれらの映画や週刊誌に関心をもつものが少ないのではないかと思われる。（第２３表参照）

第２３表　性問題を露骨に扱つた映画・週刊誌は、どういう年代の人に興味をもたれているか

	総数	若い人に多い	年配者に多い	どちらともいえない	わからない、不明
男	100.0	30.7	14.1	46.5	8.7
女	100.0	31.1	11.5	37.5	19.9

ハ　休日をどのように過ごしているか

休日の過ごし方についてみると、男子は「映画、演劇」「休養」「読書」「テレビ・ラジオ」「外出・散歩」等を、女子は「身のまわりの整理」「読書」「趣味、けいこごと」「休養」「買物」等をして過ごすものが多い。

学生・勤労者・自衛隊員別にみると、男子学生は「映画・演劇」（５３％）、「勉強」（５２％）、「テレビ・ラジオ」（４３％）を、男子勤労者は「休養」（５４％）、「テレビ・ラジオ」（４３％）、「スポーツ、登山」（４０％）を、自衛隊員は「映画・演劇」（６５％）、「休養」（４６％）、「外出・散歩」（４５％）等をして過ごすものが多く、女子学生は「身のまわり整理」（６６％）、「読書」（６０％）、「休養」（４４％）、「外出・散歩」（４３％）、「買物」（４２％）、「テレビ・ラジオ」（４１％）、「勉強」（４１％）を、女子勤労者は「身のまわりの整理」（６７％）、「趣味、けいこごと」（５１％）、「休養」（４３％）、「買物」（４２％）等をして過ごすものが多い。

（第２４表―１参照）

さらに、通勤、通学形態別にみると、親元からの通勤・通学者にくらべて、下宿あるいは寄宿舎（寮）に生活するものの方が、男子は「映画，演劇」「外出，散歩」「麻雀，パチンコ，囲碁，将棋」「喫茶店」「キャバレー，ダンスホール」等で過ごすものの割合が高く、女子は「映画，演劇」「外出，散歩」等で過ごすものの割合が高くなつている。

（第２４表―２参照）

第２４表―１　休日をどのように過ごしているか

		調査対象者	身のまわり整理	休養	読書	映画、演劇	テレビ・ラジオ	外出、散歩	旅行、ハイキング	趣味、けいこごと	スポーツ、登山	交友訪問	勉強	買物	雑談	囲碁、将棋、パチンコ	ただぼんやり	家事、家業	サークル、クラブ活動	喫茶店	キャバレー、ダンスホール	その他	不明
男	総数	1000	266	476	435	491	417	370	258	149	340	260	317	78	165	315	154	50	95	100	87	26	01
	学生	1000	264	394	491	526	425	389	255	184	365	323	517	73	231	302	236	57	167	139	68	38	02
	勤労者	1000	300	536	421	354	425	300	331	156	401	273	148	93	140	300	125	60	81	50	56	25	—
	自衛隊員	1000	201	458	355	649	368	448	120	80	171	136	140	40	104	344	80	20	10	127	164	10	07
女	総数	1000	665	432	464	377	389	398	375	449	183	260	200	420	234	05	115	215	90	64	10	25	02
	学生	1000	662	438	601	371	412	433	392	364	209	249	410	417	249	13	155	285	155	87	15	33	—
	勤労者	1000	668	429	361	360	371	373	363	514	164	268	39	423	222	—	87	162	41	46	06	15	04

注）１人で、該当する項目すべてについて回答しているので各項目の合計は総計と一致しない。

第２４表－２　休日をどのように過ごしているか

%

		調査対象者総数	身の整理のため	休養	読書	映画演劇	テレビ・ラジオ	外出散歩	旅行・ハイキング	趣味をいかしたこと	スポーツ・登山	交友・訪問	勉強	買物	雑談	家事・育児・子守	裁縫・洗濯・掃除	家事・家業	サークル・クラブ活動	喫茶・店	ダンス・ボール・ゴルフ	その他	不明
男	合計	100.0	26.6	47.6	43.5	49.1	41.7	37.0	25.8	14.9	34.0	26.0	31.7	7.8	16.5	5.0	31.5	15.4	5.0	9.5	8.7	2.6	0.1
	親元から通勤（通学）	100.0	20.0	48.6	43.9	36.8	50.0	30.2	31.5	18.4	39.9	28.4	27.1	7.3	12.1	20.0	26.2	19.3	8.2	12.0	4.4	2.9	—
	親族宅から〃	100.0	25.0	45.0	35.0	40.0	50.0	40.0	15.0	15.0	35.0	25.0	25.0	5.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	10.0	20.0	—	5.0
	下宿から〃	100.0	30.3	53.0	48.9	59.3	36.4	42.9	25.8	13.9	30.7	40.7	47.2	9.1	22.9	32.0	36.4	14.3	22.2	12.1	11.7	5.2	—
	寄宿舎（寮）	100.0	30.6	50.3	41.4	55.5	36.6	40.1	22.2	12.5	30.3	17.7	19.5	7.9	17.1	2.7	36.4	12.5	2.7	6.2	11.4	1.3	—
女	合計	100.0	66.5	45.2	46.4	37.7	38.9	39.8	37.5	44.9	18.3	26.0	20.0	42.0	23.4	0.5	0.5	11.5	21.5	9.0	1.0	2.5	0.2
	親元から通勤（通学）	100.0	67.8	47.3	47.9	24.7	49.0	33.2	41.1	44.4	21.4	22.8	23.7	41.3	23.2	0.8	0.8	13.3	36.5	1.4	1.2	3.3	0.2
	親族宅から〃	100.0	78.9	26.3	36.8	36.8	31.6	31.6	36.8	36.8	21.1	21.1	26.3	36.8	26.3	—	—	21.1	26.3	5.3	—	—	—
	下宿から〃	100.0	69.0	44.0	67.9	45.2	36.9	51.2	42.9	32.1	20.2	31.0	36.9	45.2	22.6	—	—	15.5	9.5	5.3	1.2	1.2	1
	寄宿舎（寮）	100.0	62.9	39.0	36.6	55.5	25.2	47.7	30.5	49.5	12.5	29.9	8.7	42.7	23.7	0.3	0.3	7.2	1.6	4.4	0.6	1.9	0.3

注）１．通勤，通学形態不明のものを除く
　　２．１人で該当する項目すべてについて回答しているので各項目の合計は総数と一致しない

3．売春問題に対する態度

イ　風紀上好ましくない環境をどう思うか

調査対象者が居住する地域には風紀上好ましくない環境があるかどうか，ある場合，そうした環境をどのように考えているかをみたところ，自分の住居の周辺でいかがわしい女性やそのような女性が出入りする旅館あるいは住宅をみかけることが「ある」と答えているものは男子で２３%，女子では僅か７%である。（第２５表参照）

第２５表　　住居の周辺でいかがわしい女性や，いかがわしい旅館を見かけるか

%

	総数	ある	ない	不明
男	100.0	22.9	76.6	0.5
女	100.0	7.0	91.1	1.9

さらに，「ある」と答えたものについて，こうしたいかがわしい女性が横行したり，そのような女性が出入する旅館あるいは住宅が存在している状態についてどのように考えているかをみたところ，男４７%，女９２%が「なんとかしてなくしたい」「なくなればよい」と答えており，ことに女子は殆んどがこうした環境をうれえている。しかし，なかには，「しかたがない」（男３２%，女３%），「別になんとも思わない」（男１８%，女３%）と答えているものもあり，とくに男子にはこうした環境の浄化に対して消極的な態度を示しているものがかなりみられる。（第２６表参照）

なお，「なんとかしてなくしたい」「なくなればよい」と考えているものは男女いずれも学生（男６２%，女１００%）に多く，「しかたがない」「別になんとも思わない」と消極的な態度を示しているものは男子では勤労者や自衛隊員に多く（６２%～５８%），女子では学生には皆無で，勤労者にわずか（１０%）みられる程度である。　（第２６表参照）

第２６表　　いかがわしい女性あるいは旅館についてどう思うか

%

		総数	なんとかしてなくしたい	なくなればよい	しかたがない	別になんとも思わない	わからない 不明
男	総数	100.0	30.2	16.7	31.7	18.2	3.2
	学生	100.0	37.9	24.1	19.0	15.2	3.8
	勤労者	100.0	31.8	15.9	39.6	12.7	—
	自衛隊員	100.0	25.2	13.0	35.2	22.3	4.3
女	総数	100.0	48.4	43.8	3.1	3.1	1.6
	学生	100.0	54.2	45.8	—	—	—
	勤労者	100.0	45.0	42.5	5.0	5.0	2.5

注）　住居の周辺でいかがわしい女性やいかがわしい旅館を見かけたことが「ある」と答えたもののみ。

ロ　売春をする女性に対してどう感じているか

また，売春をする女性に対し，男子は「無関心」（３１％），「同情する」（３０％）と答えているものがそれぞれ約３割で最も多く，次いで，「不潔だ」（２４％），「反感を抱く」（１１％）と答えているものの順となつている。女子は「不潔だ」（３４％）が最も多く，「反感を抱く」（２３％），「同情する」（２１％）がこれに次ぎ，「無関心」（１６％）なものは少ない。（第２７表参照）

しかしこれらの回答は，調査対象者の意見のなかにも記されているように「現在の社会機構のなかで最底辺におかれた彼女らに同情はするが，売春そのものに対しては絶対に否定する（男子勤労者，２１才）」「売春婦の個人的事情によつても異なるし，見る人の感じかたも複雑で一口にはいえない，単なる同情あるいは反感などというものではない（女子学生，２１才）」「生きるためとはいえ，もつと違う道がみつけられるはず，自分の体を売りものにするのはあまりにも情ない（女子学生，２１才）」「同情する，しかし好きでやつているとしか思えない人もいるので何ともいえない（男子勤労者，２６才）」等，その感じかたも複雑である。

第２７表　　売春する女性をどう思うか

%

	総数	同情する	不潔だ	反感を抱く	無関心	その他・不明
男	100.0	29.6	23.9	10.9	31.3	4.3
女	100.0	21.0	34.2	22.6	15.9	6.3

ハ　女子が売春することをどう思うか

女の人が売春をすることは「絶対にいけない」と答えているものが男４３％，女６５％，「事情によつてはやむを得ない」というものが男３６％，女１５％となつており，女子の売春行為に対する容認度は女子より男子の方がはるかに高い。

学生，勤労者，自衛隊員別にみると，「絶対にいけない」と女子の売春行為を否定しているものは男女いずれも勤労者（男子は自衛隊員も含む）（男３７～４２％，女５９％）より学生（男５０％，女７２％）に多く，「事情によつてはやむを得ない」と容認するものは学生（男２９％，女９％），より勤労者（男子は自衛隊員も含む）（男３８～４２％，女２０％）に多い。（第２８表―１参照）

第２８表―１　　女子が売春することをどう思うか

		総数	絶対にいけない	事情によつてはやむを得ない	不明 わからない
男	総数	100.0	43.2	35.7	21.1
	学生	100.0	49.8	28.5	21.7
	勤労者	100.0	41.5	38.0	20.5
	自衛隊員	100.0	37.1	41.9	21.0
女	総数	100.0	64.7	15.3	20.0
	学生	100.0	72.4	9.2	18.4
	勤労者	100.0	58.8	19.9	21.3

注）　年令不明を除く

年令別にみると，第２８表―２にみられるとおり，男子の場合では「一概にいえない」が，女子では年令が高くなるほど「絶対にいけない」と考えているものが多く，年令が低くなるほど「事情によつてはやむを得ない」と考えているものが多くなつている。（第２８表―２参照）

第２８表―２　女子が売春することをどう思うか

%

		総数	絶対にいけない	事情によつてはやむを得ない	わからない 不明
男	総数	100.0	43.2	35.7	21.1
	20～23才	100.0	45.1	32.1	22.8
	24～27才	100.0	39.1	42.4	18.5
	28～29才	100.0	53.3	30.6	16.1
女	総数	100.0	64.7	15.3	20.0
	20～23才	100.0	64.4	15.3	20.3
	24～27才	100.0	68.4	13.2	18.4
	28～29才	100.0	72.7	9.1	18.2

男女の交際が自由になつた最近の傾向に対する考え方と，女子が売春することに対する考え方とを対照させてみると，第２８表―３にみられるように，男子では，男女交際が自由になつて「困つたものだ」と考えているものの方が「好ましい」「一概にいえない」と考えているものより，女子が売春することは「絶対にいけない」と答えているものが多い（「困つたものだ」５４％，「好ましい」４５％，「一概にいえない」４０％）。一方，女子が売春することは「事情によつてはやむを得ない」と容認するものは，男女交際が自由になつて「困つたものだ」（３１％）と考えるものより「好ましい」（３５％），「一概にいえない」（３９％）と考えているものに多くなつている。

女子では，男女交際が自由になつて「好ましい」「一概にいえない」と考えているものの過半数は女子が売春することは「絶対にいけない」と答えており（「好ましい」６９％，「一概にいえない」５８％），「事情によつてはやむを得ない」と容認しているものは少ない。男女交際が自由になつて「困つたものだ」と考えているものは，女子が売春をすることは「絶対にいけない」というものと「事情によつてはやむを得ない」というものとがそれぞれ４０％で同数を占めている。（第２８表―３参照）

第２８表―３　女子が売春することをどう思うか

%

		総数	絶対にいけない	事情によつてはやむを得ない	わからない 不明
男	総数	100.0	43.2	35.7	21.1
	男女交際が自由になつて好ましい	100.0	44.7	34.5	20.8
	〃 困つたものだ	100.0	53.8	30.8	15.4
	〃 一概にいえない	100.0	39.9	39.0	21.1
女	総数	100.0	64.7	15.3	20.0
	男女交際が自由になつて好ましい	100.0	69.4	13.2	17.4
	〃 困つたものだ	100.0	40.0	40.0	20.0
	〃 一概にいえない	100.0	58.4	19.0	22.6

なお，前回調査における同年令層の回答では「絶対にいけない」と答えているものは男５５％，女６５％，「事情によつてはやむを得ない」は男３１％，女２２％となつており，今回調査と比較すると，男子では，「絶対にいけない」と考えるものは前回より今回が１割程度少なく，「事情によつてはやむを得ない」と容認するものは前回より今回がやや（０.５％）多くなつている。女子では，「絶対にいけない」というものは全く同率であるが，「事情によつてはやむを得ない」と容認するものは前回より今回の方が１割近く少ない。なお，この問題に対して「わからない」と答えているものが男女いずれも前回より今回に約１割多いことを参考までに付記しておく。

「事情によつてはやむを得ない」と答えたものに対し，それではどのような事情がある場合には売春をすることもやむを得ないと思うかを問うと，男子は「自分の生活のためなら」（４８％）が最も多く，「病気や失業した夫や親を養なうためなら」（３５％），「子供を育てるためなら」（１８％）がこれに次いでいる。女子は「病気や失業した夫や親を養なうためなら」（５３％），「自分の生活のためなら」（４２％），「子供を育てるためなら」（２８％）の順となつている。（第２９表参照）

なお「事情によつてはやむを得ない」と答えているもののなかには「絶対にいけないと思うが，現実に生きるためには観念的な倫理感では律しきれない問題がある（男子学生，２３才）」「たとえ生きるためであつても売春的行為は許し難いが，現実の社会ではこのような女性が正業につくことは非常に困難である。従つて現状ではやむを得ない（男子勤労者，２８才）」等の意見が数多くみられた。またごく少数であるが「生活，貧困のためではなく，全く自分が好

きでやつていることなら致し方ない（男子勤労者，２８才）」「自分自身は絶対にいやだと思うが，人には人それぞれの考えがあるから，個人にまかせられた問題だと思う（女子学生，２０才）」というのもみられた。

第２９表　どういう事情がある場合には売春をしてもやむを得ないと思うか

%

	合計	自分の生活のためなら	子供を育てるためなら	病気や失業した夫や親を養うためなら	その他	不明
男	100.0	48.4	17.9	34.6	21.3	7.8
女	100.0	41.7	28.1	52.5	12.9	—

注）第28表で，「事情によつてはやむを得ない」と答えたもののみ

二　男子が売春婦と遊ぶことをどう思うか

男子が売春婦と遊ぶことは「わるいことだ」と答えているものが男子で44％，女子では74％，「場合による」と答えているものが男26％，女13％，「別にわるいことではない」とはつきり容認しているものが男17％，女1％で，売春の相手方に対する批判は男子より女子の方がはるかにきびしい。（第30表―1参照）

学生，勤労者，自衛隊員別にみると，「わるいことだ」と答えているものは，男女いずれも勤労者（男子は自衛隊員を含む）（男36～37％，女70％）より学生（男58％，女79％）に多く，「場合による」「別にわるいことではない」と答えているものはいずれも学生（前者男11％，女1％，後者男19％，女8％）より勤労者（自衛隊員を含む）（前者男17～28％，女1％，後者男31～26％，女14％）に多くなつている。（第30表―1参照）

第３０表―１　男子が売春婦と遊ぶことをどう思うか

%

		総数	わるいことだ	場合による	別にわるいことではない	わからない 不明
男	総数	100.0	44.2	25.7	17.4	12.7
	学生	100.0	58.3	18.8	10.6	12.3
	勤労者	100.0	37.0	31.3	16.7	15.0
	自衛隊員	100.0	36.4	26.1	27.8	9.7
女	総数	100.0	73.9	11.6	1.1	13.4
	学生	100.0	79.4	8.4	1.0	11.2
	勤労者	100.0	69.6	14.1	1.2	15.1

男女の交際が自由になつた最近の傾向に対する考え方と，男子が売春婦と遊ぶことに対する考え方とを対照させてみると，第30表―2にみられるとおり男子では，男女交際の自由な傾向を「困つたものだ」とみているものの方が「好ましい」「一概にいえない」とみているものより，男子が売春婦と遊ぶことは「わるいことだ」と答えているものが多い。しかし，一方売春婦と遊ぶことは「別にわるいことではない」と答えているものも，男女交際が自由になつて「好ましい」（18％），「一概にいえない」（16％）と考えているものよりも「困つたものだ」（23％）と考えているものの方に多いことが注目される。女子では，男女交際が自由になつて「好ましい」「一概にいえない」と答えているものは，売春婦と遊ぶことは「わるいことだ」と答えているものが圧倒的に多い。また，「場合による」と答えたものは男女交際が自由になつて「困つたものだ」と答えているものに多くなつている。（第30表―2参照）

なお，前回調査における同年令層の回答では，男子が売春婦と遊ぶことは「わるいことだ」と答えているものが男63％，女79％，「場合による」は男21％，女10％，「別にわるいことではない」男7％，女3％となつており，今回調査と比較すると，男子が売春婦と遊ぶことを罪悪と考えるものは，前回より今回の方が男子で2割弱，女子で1割弱少なくなつている。一方，「別にわるいことではない」とはつきり容認的態度をとつているものは，女子ではたいした差がみられないが，男子では前回より今回の方が1割多くなつている。

第３０表―２　男子が売春婦と遊ぶことをどう思うか

%

		総数	わるいことだ	場合による	別にわるいことではない	わからない 不明
男	総数	100.0	44.2	25.7	17.4	12.7
	男女交際が自由になつて好ましい	100.0	44.3	25.0	18.2	12.5
	〃 困つたものだ	100.0	53.8	7.7	23.1	15.4
	〃 一概にいえない	100.0	43.8	28.3	15.7	12.2
	総数	100.0	73.9	11.6	1.1	13.4
	男女交際が自由になつて好ましい	100.0	76.6	10.2	0.9	12.3
	〃 困つたものだ	100.0	40.0	20.0	—	40.0
	〃 一概にいえない	100.0	70.7	14.2	1.6	13.5

4. 売春防止法に対する態度

売春防止法は「絶対に必要」と考えているものは男子３５％，女子６３％，「ないよりまし」と考えているものは男子２５％，女子１４％で，過半数のものは売春防止法は賛成であると考えている。「反対」と答えているものは男子２６％，女子６％で，とくに女子には少ない。このほか「あつてもなくてもよい」「関心がない」と答えているものは女子より男子にやや多く（男１０％，女４％），「売春防止法の内容を知らない」「そんな法律のあることを知らなかつた」と答えているものは男子より女子にやや多くみられる（男４％，女１１％）。

また売春防止法を賛成しているもの ―「絶対に必要」「ないよりまし」と答えているもの ―は，男女いずれも勤労者（男子は自衛隊員を含む）（男４９～５７％，女７３％）より学生（男７０％，女８３％）に多い。

なお，売春防止法について「反対」と答えているものの反対理由をみると，男女とも反対者の４割（男３９％，女４０％）が「法律で規制すべきでない」と答えている。次いで男子は「必要悪だから禁ずべきでない」（２６％），女子は「守れない法律だから」（２６％）と答えている。（第３１表―１参照）

第３１表―１　売春防止法についてどう思うか

%

		総数	絶対に必要	ないよりまし	反対 計	反対 法律で規制すべきでない	反対 必要悪だから禁ずべきでない	反対 守れない法律だから	反対 不明 理由	あつてもなくてもよい	関心がない	売春防止法の内容を知らない	そんな法律のあることを知らなかつた	不明
男	総数	100.0	35.0	24.8	(100.0) 25.6	(38.3) 9.8	(25.8) 6.6	(22.3) 5.7	(13.7) 3.5	5.6	4.1	3.5	0.3	1.1
	学生	100.0	40.2	30.0	(100.0) 18.9	(53.9) 10.2	(22.2) 4.2	(16.4) 3.1	(7.4) 1.4	2.4	4.0	4.0	—	0.5
	勤労者	100.0	32.6	24.6	(100.0) 27.7	(31.4) 8.7	(31.4) 8.7	(25.3) 7.0	(11.6) 3.2	5.2	4.9	2.4	0.8	1.8
	自衛隊員	100.0	51.1	17.4	(100.0) 31.8	(34.6) 11.0	(20.1) 6.4	(23.3) 7.4	(22.0) 7.0	11.0	3.0	4.7	—	1.0
女	総数	100.0	63.2	14.1	(100.0) 5.7	(40.4) 2.3	(21.8) 1.4	(26.3) 1.5	(17.5) 1.0	0.3	3.6	9.6	1.1	2.4
	学生	100.0	64.1	19.1	(100.0) 4.8	(64.6) 3.1	(32.8) 0.3	(16.7) 0.8	(16.7) 0.8	0.3	3.1	7.1	0.5	1.0
	勤労者	100.0	62.5	10.2	(100.0) 6.4	(26.5) 1.7	(21.8) 1.4	(32.8) 2.1	(18.7) 1.2	0.4	4.1	11.4	1.5	3.5

学歴別にみると，男女とも学歴の高い層に「絶対に必要」「ないよりまし」と売春防止法を支持するものの割合が高く（小学，新中卒男５３％，女６８％，短大，大学卒（在学を含む男６７％，女８３％），「反対」と答えているものは学歴の低い層に多くなっている（小学，新中卒男２８％，女８％，短大，大学卒（在学を含む）男２１％，女５％）。また「反対」しているものの反対理由をみると，「法律で規制すべきでない」は学歴の高い層に，「必要悪だから」「守れない法律だから」は学歴の低い層に多くみられる。「売春防止法の内容を知らない」「そんな法律のあることを知らなかつた」と答えたものは学歴の低いものに多い。（第３１表―２参照）

第３１表―２　売春防止法についてどう思うか

％

		総数	絶対に必要	ないよりまし	反対 計	法律で規制すべきでない	必要悪だから禁ずべきでない	守れない法律だから	理由不明	あつてもなくてもよい	関心がない	売防法の内容をしらない	そんな法律のあることを知らなかつた	不明
男	総数	100.0	35.0	24.8	25.6	9.8	6.6	5.7	3.5	5.6	4.1	3.5	0.3	1.1
男	小学，新中卒	100.0	34.0	19.3	28.4	1.1	5.1	8.6	6.6	6.1	4.6	7.1	0.5	—
男	旧中，新高卒	100.0	32.7	19.5	31.0	9.1	10.0	8.4	3.7	8.9	3.5	2.2	0.7	1.5
男	短大，大学卒（在学）	100.0	36.9	30.1	21.1	10.8	5.1	3.1	2.1	3.4	3.9	3.3	—	1.3
女	総数	100.0	63.2	14.1	5.7	2.3	0.9	1.5	1.0	0.3	3.6	9.6	1.1	2.4
女	小学，新中卒	100.0	59.0	9.0	7.9	1.5	1.9	2.6	1.9	0.3	2.6	12.8	3.0	5.4
女	旧中，新高卒	100.0	65.9	11.8	4.4	2.0	0.4	1.6	0.4	0.4	5.7	9.8	—	1.6
女	短大，大学卒（在学）	100.0	64.4	18.8	5.0	3.0	0.5	0.8	0.8	0.3	3.0	7.0	0.5	1.0

注）　学歴不明を除く

さらに，さきに回答を求めた女子が売春することについて「絶対にいけない」と答えたものは売春防止法についても「絶対に必要」と答えているものが多数を占めている（男５６％，女７４％）。なお，女子が売春することは「事情によってはやむを得ない」と考えているものは売春防止法についてについて「反対」がとくに男子の場合かなり多い（男４３％，女１１％）。（第３１表―３参照）

第３１表―３　売春防止法についてどう思うか

％

		総数	絶対に必要	ないよりまし	反対 計	法律で規制すべきでない	必要悪だから禁ずべきでない	守れない法律だから	理由不明	あつてもなくてもよい	関心がない	売防法の内容をしらなかつた	そんな法律のあることをしらなかつた	不明
男	総数	100.0	35.0	24.7	25.6	9.8	6.6	5.7	3.5	5.6	4.2	3.5	0.3	1.1
男	女子が売春することは絶対にいけない	100.0	55.8	22.8	11.9	5.5	2.3	2.8	1.3	3.6	1.9	3.4	0.2	0.4
男	〃　事情によつてはやむを得ない	100.0	17.6	24.1	42.7	15.6	12.6	8.0	6.4	7.1	3.2	3.2	0.7	1.4
女	総数	100.0	63.2	14.1	5.7	2.3	0.9	1.5	1.0	0.3	3.6	9.6	1.1	2.4
女	女子が売春することは絶対にいけない	100.0	73.8	11.4	3.4	1.7	0.7	0.5	0.5	0.2	1.4	6.9	0.7	2.2
女	〃　事情によつてはやむを得ない	100.0	45.3	16.5	10.8	3.6	1.4	3.6	2.2	—	7.2	13.7	2.9	3.6

また，男子が売春婦と遊ぶことについて「わるいことだ」と考えているものは売春防止法についても「絶対に必要」と答えているものが多い（男５６％，女７１％）。売春婦と遊ぶことは「別にわるいことではない」と考えているものは売春防止法に「反対」するものがとくに男子の場合かなり多い（男５３％，女１０％）。（第３１表―４参照）

第３１表－４　売春防止法についてどう思うか

%

		総数	絶対に必要	ないよりまし	反対 計	法律で規制すべきでない	必要悪だから禁ずべきでない	守れない法律だから	理由不明	あつてもなくてもよい	関心がない	売防法の内容をしらない	そんな法律のあることをしらなかつた	不明
男	総数	100.0	35.0	24.7	25.6	9.8	6.6	5.7	3.5	5.6	4.2	3.5	0.3	1.1
	男子が売春婦と遊ぶことはわるいことだ	100.0	56.1	25.3	9.6	4.6	1.3	2.8	0.9	2.0	3.1	3.1	0.2	0.6
	〃 場合による	100.0	19.3	25.7	37.5	15.6	9.3	8.3	3.8	8.9	2.9	3.8	0.3	1.6
	〃 別にわるいことではない	100.0	10.8	17.1	53.3	16.0	17.9	9.0	10.4	9.4	5.2	2.4	0.9	0.9
女	総数	100.0	63.2	14.1	5.7	2.3	0.9	1.5	1.0	0.3	3.6	9.6	1.1	2.4
	男子が売春婦と遊ぶことはわるいことだ	100.0	71.1	12.2	3.3	1.8	0.3	0.9	0.3	0.3	2.2	8.5	0.9	1.5
	〃 場合による	100.0	41.6	19.8	13.2	3.8	1.9	3.8	13.8	—	9.4	13.2	2.8	—
	〃 別にわるいことではない	100.0	30.0	30.0	10.0	—	—	—	10.0	—	10.0	10.0	—	10.0

5. 売春問題の将来に対する判断

イ　売春およびその相手になる行為は今後なくなるか

約半数のものが，売春およびその相手になる行為は今後「なくなる」あるいは「少なくなる」だろうと答えている（男４５％，女５５％）。「かわりない」と答えているものは男３１％，女１９％，「むしろふえる」と答えているものは男１５％，女５％となつている。このほか「わからない」と答えているものは女子の場合かなり多くみられる（男９％，女２１％）。

男子では「少なくなる」と考えるものは勤労者に，「かわりない」は学生に，「むしろふえる」は自衛隊員に多い。女子は学生と勤労者の間にほとんど差はみられない。（第３２表参照）

第３２表　売春およびその相手になる行為は今後なくなるか

%

	総数	なくなる	少なくなる	かわりない	むしろふえる	わからない 不明
総数	100.0	0.7	44.7	30.6	15.4	8.6
学生	100.0	0.9	41.4	37.0	12.0	8.7
勤労者	100.0	0.8	48.8	28.3	12.9	9.2
自衛隊員	100.0	0.3	42.5	25.4	24.4	7.4
総数	100.0	1.0	54.2	19.2	4.9	20.7
学生	100.0	1.5	55.0	19.3	5.1	19.1
勤労者	100.0	0.6	53.7	19.1	4.8	21.8

ロ　売春行為をなくすためにはどうしたらよいと思うか

売春行為をなくすためには社会的にどのような方法をとるのがよいか，「取締まりを強化する」「人権尊重の思想を徹底する」「社会保障を進める」「青少年の性教育を強化する」の４つの条件をあげ，それぞれについて回答を求めたところ，次のように答えている。

まず，取締まりを強化すれば売春行為は「なくなる」「少なくなる」と考えているものは男５１％，女５７％と半数以上を占め，「かわりない」と考えているものは男４２％，女２９％である。次に人権尊重の思想を徹底すれば「なくなる」「少なくなる」と考えているものは男５７％，女６５％と過半数を占め，「かわりない」は男３０％，女１６％である。社会保障が進めば売春行為は「なくなる」「少なくなる」と考えているものは他の条件の回答率より最も高く男７７％，女８２％を占め，「かわりない」は男１５％，女７％である。青少年の性教育を強化すれば「なくなる」「少なくなる」は男４５％，女４９％，「かわりない」は男３８％，女２１％となつている。（第３３，３４，３５，３６表参照）

すなわち売春行為をなくすための社会的条件として，社会保障の充実をあげるものが最も多く，次いで人権尊重思想の徹底，取締まりの強化，青少年に対する性教育の徹底の順にあげられている。

前回調査においても社会保障が進んだら売春行為は「なくなる」「少なくなる」と答えているものが最も多く，男８３％，女８２％となつている。

なお，売春行為をなくしていくために調査対象者は次のような意見を寄せている。「両性の個人の自覚と，社会政策とが一貫して進められなければ決して売春は減らないだろう（女子勤労者，２２才）」「売春婦を取締まるだけでは無駄だ，そういうみじめな環境に追いやつた社

会的条件をなくすべきであり，また同時に（ひも）ともなる暴力団組織の根絶をはかるべきだ（男子学生，２０才）」「いずれにしても根絶はむずかしいと思う。また単に取締まりを強化するだけではかえつてどこかにひずみを生じ，社会にとつてより大きな不幸を招くことになりかねない，人権尊重の思想を徹底する，社会保障を進める，青少年の性教育を強化する等の政策を基本的態度とし，長い目でみることが必要であろう（男子勤労者，２８才）」。

第３３表　取締まりを強化すれば売春行為はなくなるか

%

	総数	なくなる	少なくなる	かわりない	わからない 不明
男	100.0	4.2	46.7	41.6	7.5
女	100.0	5.4	51.8	29.0	13.8

第３４表　人権尊重の思想が徹底すれば売春行為はなくなるか

%

	総数	なくなる	少なくなる	かわりない	わからない 不明
男	100.0	10.5	46.3	29.7	13.5
女	100.0	12.2	53.2	16.0	18.6

第３５表　社会保障が進めば売春行為はなくなるか

%

	総数	なくなる	少なくなる	かわりない	わからない 不明
男	100.0	24.2	53.1	14.8	7.9
女	100.0	27.2	54.6	6.8	11.4

第３６表　青少年の性教育を強化すれば売春行為はなくなるか

%

	総数	なくなる	少なくなる	かわりない	わからない 不明
男	100.0	4.2	40.6	38.4	16.8
女	100.0	6.9	41.6	20.5	31.0

風紀についての意識
——意識調査結果報告——

昭和３９年３月２５日印刷
昭和３９年３月３１日発行

発行者　労働省婦人少年局
印刷者　株式会社　平文社